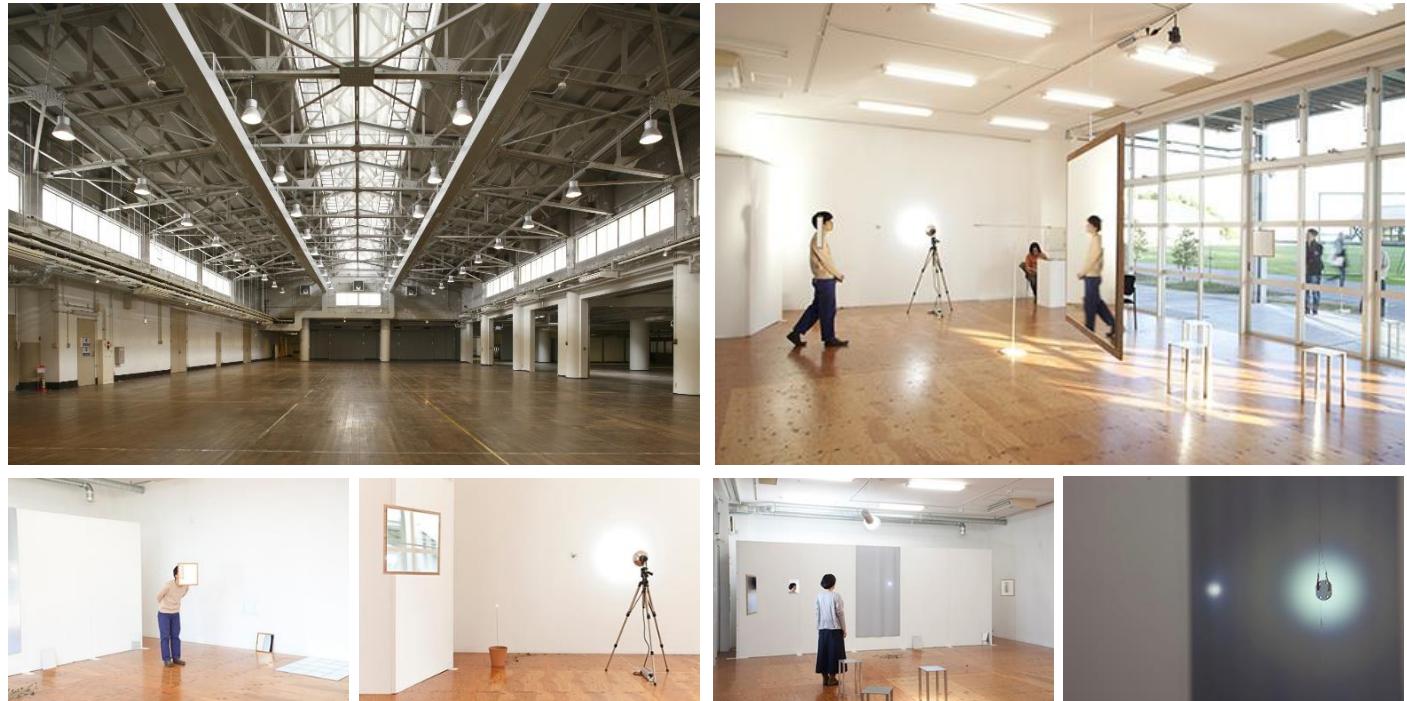


KIITO: KIITO アーティスト・イン・レジデンス 2018 に 現代美術家の椎原保氏を招聘

神戸市の都市戦略「デザイン都市・神戸」の拠点施設である「デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）」では、創造性を育むさまざまな活動に取り組んでいます。

この取り組みの一環として、次のとおり事業を行いますので、ぜひご参加ください。



写真左上：成果発表展会場の中心となるKIITOホール（撮影：伊東俊介）、そのほか：椎原保「ephemera: こここのむこう」（成安造形大学ライトギャラリー、2012年、撮影：加納俊輔）

2018年度のKIITOアーティスト・イン・レジデンス招聘作家として、現代美術家の椎原保氏（1952年大阪府池田市生まれ、京都市在住）を迎え、6月よりセンターを拠点に制作活動を開始しました。

一貫して「感じること」をテーマに制作を続けてきた椎原。インスタレーション作品に用いられるスタンドライト、鏡、植物といった日常にある何気ないものたちは、すべてそれらを通してその環境へ耳を澄ませ、世界に対して目を凝らすための道具であると言えるでしょう。椎原により構成された空間では、少し歩みを進めるたびに、新しい景色が見えてきます。

現在は、KIITOの建物および周辺環境をのリサーチを重ねています。来春3月の成果発表展では、1000平米ほどのKIITOホールを含んだ1階全体を展示会場とし、その広大な空間を余すところなく「感じる」ためのインスタレーションを展開予定です。

会期中には、関連イベントとして、子ども向けには普段はなかなか行かないエリアを含めた館内＆展覧会鑑賞ツアー、大人向けにはテーマを設定した対話の場など、あらゆる人向けに、さまざまなかたちで、作家とともにセンターをめいっぱい「感じる」ことを行う機会を設けたいと思います。どうぞご期待ください。

開催概要

- | タイトル | KIITO アーティスト・イン・レジデンス 2018 椎原保
- | 制作期間 | 2018年6月～2019年3月
- | 招聘作家 | 椎原保（現代美術家）
- | 関連企画 | 成果発表展：2019年3月9日（土）～4月7日（日）（予定）
- | 主催 | デザイン・クリエイティブセンター神戸

アーティストプロフィール

椎原 保（しいはら・たもつ）

1952年大阪府池田市生まれ、京都市在住。京都市立大学美術学部西洋画科卒業。主な展覧会に、1984-5年「現代美術への視点—メタファーとシンボル」展（東京国立近代美術館／国立国際美術館）、1985年「アート・ナウ'85」展（兵庫県立美術館）、1998年「椎原保+藤枝守」展（佐賀町エキジビットスペース）、1999年「線の表情」（国立国際美術館）、2014年「無人島にて—「80年代」の彫刻/立体/インスタレーション」（京都造形芸術大学ギャルリ・オーブ）など。



KIITO アーティスト・イン・レジデンスとは

アーティストに KIITO のスペースをスタジオとして提供、滞在制作を行う。神戸のまちのリサーチや人々との交流に重点を置く作家を招聘。アーティストの視点で、新たな神戸の発見や再解釈を行い、作品として可視化する。滞在制作してもらうことにより、アーティストと市民の交流を促進。市民にアーティストならではの独自の視点や制作手法に触れてもらい、感性や創造力を育む機会を提供する。招聘数は1～2組／年。過去の招聘作家は、水川千春（美術家, 2012年度）、濱口竜介（映画監督, 2013-14年度）、西尾美也（美術家, 2014年度）、柴幸男（劇作家・演出家、劇団「ままごと」主宰）+NO ARCHITECTS（建築家, 2014年度）、Chloe Meineck（デザイナー、インベンター, 2015年度）、長島有里枝（写真家, 2015-16年度）、石塚まこ（現代美術作家, 2017年度）。



参考画像:過去の招聘の様子

上：長島有里枝 制作風景（2015-2016年度）

中：東方悠平「てんぐバックスカフェ in Kobe」（2016年度、撮影：辻本しんこ）

下：石塚まこ 制作風景（2017年度）

お問合せ | デザイン・クリエイティブセンター神戸 広報担当 住所 | 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4

開館時間 | 9時～21時 入館料無料 休館日 | 月曜日（祝日または振替休日の場合はその翌日） WEB | <http://kiito.jp/>